

じょうざんていおよ じょうざんてい ひ
「常山隄及び常山隄碑」 町指定（史跡）

所在地：大字坂城 9613 所有者：国土交通省・坂城町 指定：昭和 48 年 12 月 27 日

常山隄は国道 18 号と千曲川堤防の間に残る古い堤防の遺跡です。坂城地籍平坦地は千曲川の氾濫のたびに甚大な被害を受けていましたが、天保12 年（1841）の大洪水では耕地は全く潰滅に帰しました。中之条代官は農民の請願を受けこれを幕府に懇願し、江戸幕府から佐藤嘉長が派遣されて同年直ちに築堤に着工し、5 年の歳月を費して弘化 2 年（1845）完成しました。従来の工法にはない川筋に対して大堤を直角に突出したもので、長さ 165 間（300m）で、大石をもって基礎を築き、特に堤端は置石と称する巨石により堅牢無比の構築方法がとられました。この築堤により流路が西方に移り、安定した耕地が拡大し水害から守られました。

嘉長はこの堤に「常山隄」と名づけ、堤上に祠を建て毎年祭りを行って、巨石数個を必ず水中に埋めて堤端を補強し、祭りの行事とすることを村民に約束させました。

「常山」は中国の兵法書孫子からとった語で、常山の蛇は、頭がうたれれば尾がこれを助け、尾をうたれれば頭が尾を救う。洪水がどこを突いても絶対にこの堤は崩れることがない、と嘉長は説明して去りました。

村民は、築堤の由来を後世に伝えるため、常山隄碑を建立し、碑の表面には置石と嘉長の事績を、裏面には下戸倉村の柳沢氏、坂井氏の助力のことも刻んでいます。

